社会・国会を中心とする民主政治の仕組み考察ワーク 解答解説

正答・資料中の根拠・判断理由・記述条件｜一律の部分点なし

対象教科	社会
対象単元	公民・民主政治・国会
問題構成	基礎4問・標準4問・本番形式4問
問題数	12問
目標時間	45分
難易度	基礎〜標準
公式確認日	2026-09-03

採点観点の扱い

東京都教育委員会の採点のポイントにある、指定された内容を資料に即して適切に書くという観点だけを用いる。各学校が作成する部分点の基準や点数を本教材で一律に設定しない。記述は模範解答と同一表現でなくても、指定された資料上の根拠、制度、観点を満たす適切な表現を認める。

問題 1

区分：基礎

分野：公民・国会の地位

資料1 三つの機関と主な働き（表）

単位：機関｜期間：日本国憲法施行下｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

機関	主な働き
国会	法律を定める
内閣	法律を実施する
裁判所	争いを法に基づいて判断する

資料1で法律を定める機関を答え、その機関が国の唯一の何機関と定められているか書きなさい。

正答：国会、立法機関

資料中の根拠

表では国会の主な働きが『法律を定める』とされている。

都立入試ナビ

読み取る数値・語句・位置・期間

国会、法律を定める、立法機関。

選択肢の判断理由

法律を制定する働きは立法であり、憲法は国会を国の唯一の立法機関としている。

必要な社会科知識

国会は国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関である。

詳しい解説

内閣は行政、裁判所は司法を担う。法律を定める国会が立法機関に当たる。

間違いやすい点

内閣が法律を定めると考えること。

誤答しやすい理由

内閣は法案を提出することがあるが、法律を議決する機関は国会である。

記述問題の模範解答

国会であり、国の唯一の立法機関である。

記述条件

機関名と『立法機関』の語句を書く。

別の適切な表現

法律を定めるのは国会で、唯一の立法機関とされる。

見直しポイント

立法・行政・司法を三つの機関に対応させ直す。

採点観点

国会と立法機関の対応が適切に示されていること。

問題 2

区分：基礎

分野：公民・二院制

資料1 国会の構成メモ（文章資料）

単位：議院｜期間：日本国憲法施行下｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

国会は二つの議院で構成される。

どちらの議院の議員も、全国民を代表する選挙された議員である。

国会を構成する二つの議院名と、この仕組みの名称を答えなさい。

都立入試ナビ

正答：衆議院と参議院、二院制

資料中の根拠

資料は国会が二つの議院で構成されると示している。

読み取る数値・語句・位置・期間

二つの議院、全国民を代表する選挙された議員。

選択肢の判断理由

日本の国会を構成するのは衆議院と参議院であり、この構成を二院制という。

必要な社会科知識

国会は衆議院と参議院から成る。

詳しい解説

二院で審議することで、異なる観点から慎重に検討する機会が生まれる。

間違いやすい点

国会と内閣を二つの議院と考えること。

誤答しやすい理由

内閣は行政機関であり、国会を構成する議院ではない。

記述問題の模範解答

衆議院と参議院で構成され、この仕組みを二院制という。

記述条件

二つの議院名と『二院制』を書く。

別の適切な表現

衆議院・参議院の二院から成る二院制である。

見直しポイント

二つの議院名を漢字で書けるか確認する。

採点観点

衆議院、参議院、二院制が適切に示されていること。

問題 3

区分：基礎

分野：公民・国会の仕事

資料1 国会で扱う三つの案件（表）

都立入試ナビ

単位：案件｜期間：ある国会の学習用整理｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

案件	内容
A	法律案を審議し議決する
B	内閣が作成して提出した予算を審議し議決する
C	国会議員の中から内閣総理大臣を指名する

内閣が作成して国会に提出するものを扱う案件を記号で答えなさい。

選択肢

・A

・B

・C

正答：B

資料中の根拠

案件Bに『内閣が作成して提出した予算』とある。

読み取る数値・語句・位置・期間

案件B、内閣、予算、作成、提出、国会の議決。

選択肢の判断理由

予算は内閣が作成して国会に提出し、国会が審議・議決する。

必要な社会科知識

国会は法律の制定、予算の議決、内閣総理大臣の指名などを行う。

詳しい解説

作成する機関と議決する機関を区別する。予算の作成は内閣、議決は国会である。

間違いやすい点

国会が予算を作成すると答えること。

誤答しやすい理由

Aは法律案、Cは内閣総理大臣の指名であり、予算ではない。

記述問題の模範解答

B。内閣が予算を作成して国会へ提出するから。

記述条件

案件の記号を書く。

都立入試ナビ

別の適切な表現

案件B

見直しポイント

作成・提出・審議・議決の主体を矢印で確認する。

採点観点

予算を扱う案件Bが適切に選ばれていること。

問題 4

区分：基礎

分野：公民・議院内閣制

資料1 国会と内閣の関係（文章資料）

単位：なし｜期間：日本国憲法施行下｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

国会は、国会議員の中から内閣総理大臣を指名する。

内閣は、行政権の行使について国会に対し連帯して責任を負う。

資料1に示された国会と内閣の関係を表す仕組みを答えなさい。

選択肢

・議院内閣制

・直接民主制

・地方自治

・司法権の独立

正答：議院内閣制

資料中の根拠

国会が総理大臣を指名し、内閣が国会に対して責任を負う。

読み取る数値・語句・位置・期間

国会、内閣総理大臣の指名、内閣、連帯責任。

選択肢の判断理由

国会と内閣がこのように結び付く仕組みを議院内閣制という。

必要な社会科知識

日本は議院内閣制を採用している。

詳しい解説

国会と内閣が相互に関係し、内閣が国会に対して責任を負う点が重要である。

都立入試ナビ

間違いやすい点

三権分立なので国会と内閣に関係がないと考えること。

誤答しやすい理由

直接民主制は国民が直接決定する仕組み、地方自治は地域の政治、司法権の独立は裁判所に関する原則である。

記述問題の模範解答

国会が総理大臣を指名し、内閣が国会に責任を負う議院内閣制である。

記述条件

仕組みの名称を書く。

別の適切な表現

議会制と内閣の責任が結び付く議院内閣制

見直しポイント

『国会が指名』『内閣が国会に責任』の二点を確認する。

採点観点

議院内閣制が適切に示されていること。

問題 5

区分：標準

分野：公民・多数決と少数意見

資料1 架空の委員会における修正案の賛否（表）

単位：人｜期間：第1回採決｜対象地域：架空の国会委員会｜教材用の架空資料

賛否	人数
賛成	11
反対	9

資料2 採決後の話合い（会話文）

単位：なし｜期間：第1回採決後｜対象地域：架空の国会委員会｜教材用の架空資料

委員A：賛成が多いので、すぐ本会議へ進めたい。

委員B：反対意見には利用しにくい人への配慮が不足するという指摘がある。

委員C：目的は保ち、配慮条項を加える修正を検討しよう。

第1回採決の賛否の差を求め、委員Cの提案が民主的な話合いに役立つ理由を40字以内で説明しなさい。

正答：差は2人。少数意見を踏まえ、目的を保つ修正で合意を探れるから。

都立入試ナビ

資料中の根拠

賛成11人、反対9人であり、委員Cは反対意見を反映する修正を提案している。

読み取る数値・語句・位置・期間

賛成11人、反対9人、配慮条項、目的を保つ修正。

選択肢の判断理由

多数決の結果を尊重しながら少数意見も検討し、合意できる範囲を広げられる。

必要な社会科知識

多数決では結論に従う一方、十分な話合いと少数意見の尊重が重要である。

詳しい解説

差は11－9＝2人と小さい。反対理由を修正に生かすことは、対立から合意を探る手続になる。

間違いやすい点

賛成が多いという結果だけで、反対理由を無視すること。

誤答しやすい理由

採決を無効にするのではなく、採決後も少数意見を修正に生かす点が重要である。

記述問題の模範解答

差は2人。少数意見を踏まえ、目的を保つ修正で合意を探れるから。

記述条件

差を人で示し、少数意見と修正または合意に触れ、40字以内で書く。

別の適切な表現

2人差。反対側の配慮要求を修正に取り入れ、合意を広げられるため。

見直しポイント

人数差と、少数意見を生かす手続の両方を書いたか確認する。

採点観点

人数差が正しく、少数意見と合意形成の関係が資料に即して示されていること。

問題 6

区分：標準

分野：公民・二院制の意義

資料1 法案審議についての生徒会議（会話文）

単位：なし｜期間：学習活動時｜対象地域：架空の学校｜教材用の架空資料

生徒A：一つの議院だけなら、決定は速くなりそうだ。

都立入試ナビ

生徒B：二つの議院で審議すれば、異なる観点から見直す機会が増える。

生徒C：速さだけでなく、慎重さや多様な意見も大切だ。

二院制について、生徒Aが重視する観点と、生徒B・Cが重視する観点をそれぞれ答えなさい。

正答：Aは効率、B・Cは公正や慎重な審議・多様な意見。

資料中の根拠

Aは決定の速さ、BとCは見直し、慎重さ、多様な意見を述べている。

読み取る数値・語句・位置・期間

速さ、異なる観点、見直し、慎重さ、多様な意見。

選択肢の判断理由

速さは効率、意見を広く検討することは公正や慎重さの観点に対応する。

必要な社会科知識

二院制には、異なる観点から審議し、決定を慎重に行う意義がある。

詳しい解説

一方の観点だけを正解とせず、制度には効率と公正・慎重さの調整が必要だと理解する。

間違いやすい点

二院制なら必ず全員が合意すると考えること。

誤答しやすい理由

二院制は合意を保証する仕組みではなく、審議と見直しの機会を設ける仕組みである。

記述問題の模範解答

Aは決定の効率を重視し、B・Cは公正さや慎重な審議、多様な意見を重視している。

記述条件

AとB・Cの観点を対比して書く。

別の適切な表現

Aは速さ、B・Cは異なる意見を検討する慎重さを重視している。

見直しポイント

『効率』『公正または慎重さ』の両方があるか確認する。

採点観点

発言と効率・公正の観点が適切に対応していること。

都立入試ナビ

問題 7

区分：標準

分野：公民・法案審議

資料1 架空法案の審議記録（表）

単位：意見・か所｜期間：委員会審査から本会議まで｜対象地域：架空の国会｜教材用の架空資料

段階	内容
委員会	専門家3人と利用者4人から意見を聴取
修正	意見をもとに2か所を変更
本会議	修正案を討論して採決

委員会が合計何人から意見を聴いたか求め、委員会審査が公正な決定に役立つ理由を45字以内で説明しなさい。

正答：7人。専門家と利用者の異なる立場を聴き、修正してから採決できるから。

資料中の根拠

専門家3人と利用者4人から意見を聴き、2か所を修正して本会議で採決した。

読み取る数値・語句・位置・期間

専門家3人、利用者4人、合計7人、2か所の修正、本会議採決。

選択肢の判断理由

影響を受ける側と専門的な立場を審議に取り入れ、決定前に修正できる。

必要な社会科知識

国会では委員会で詳しく審査し、本会議で審議・議決する。

詳しい解説

3＋4＝7人。委員会審査は多様な情報を集め、案を見直す機会になる。

間違いやすい点

修正した2か所を意見を聴いた人数に足すこと。

誤答しやすい理由

人数と修正箇所は単位が異なるため、7＋2とはしない。

記述問題の模範解答

7人。専門家と利用者の異なる立場を聴き、修正してから採決できるから。

都立入試ナビ

記述条件

人数、二つの立場、修正または採決に触れ、45字以内で書く。

別の適切な表現

7人。専門的意見と利用者の意見を検討し、案を見直せるため。

見直しポイント

人数の単位をそろえ、決定前の審議と修正を説明したか確認する。

採点観点

7人と、異なる立場を審議に反映する意義が示されていること。

問題 8

区分：標準

分野：公民・政党と合意形成

資料1 架空の政策協議（会話文）

単位：なし｜期間：法案提出前｜対象地域：架空の国会｜教材用の架空資料

会派X：支援を早く始めることを優先したい。

会派Y：対象となる人の基準を明確にしたい。

会派Z：半年後に効果を検証する条件を加えたい。

資料2 協議後の共同修正案（表）

単位：条件｜期間：協議後｜対象地域：架空の国会｜教材用の架空資料

項目	内容
開始	成立後すみやかに開始
対象	公開された基準で判定
検証	半年後に効果を検証

共同修正案が三つの立場をどのように反映したか、50字以内で説明しなさい。

正答：早い開始、明確な対象基準、半年後の検証を組み合わせ、三つの立場を反映した。

資料中の根拠

開始はX、公開基準はY、半年後の検証はZの主張に対応する。

読み取る数値・語句・位置・期間

早い開始、対象基準の明確化、半年後の効果検証。

選択肢の判断理由

各立場の優先事項が一つずつ案に取り入れられている。

都立入試ナビ

必要な社会科知識

政党や会派は政策を示し、議会で審議・協議しながら合意を形成する。

詳しい解説

全員が同じ意見になることではなく、異なる主張を調整して共通の案にすることが合意形成である。

間違いやすい点

一つの会派の主張だけが採用されたと読むこと。

誤答しやすい理由

共同修正案には三つの立場の要素がそれぞれ残っている。

記述問題の模範解答

早い開始、明確な対象基準、半年後の検証を組み合わせ、三つの立場を反映した。

記述条件

X・Y・Zに対応する三要素を含め、50字以内で書く。

別の適切な表現

開始の速さ、対象の公正さ、事後検証を一つの修正案にまとめた。

見直しポイント

三つの発言と共同修正案を一対一で対応させる。

採点観点

三つの立場が共同修正案に反映されたことが資料に即して示されていること。

問題 9

区分：本番形式

分野：公民・予算と効率・公正

資料1 架空の支援事業案（表）

単位：億円・万人｜期間：次年度予算案｜対象地域：架空の国｜教材用の架空資料

案	費用	利用見込み	特徴
A	12億円	24万人	全国一律のオンライン支援
B	15億円	18万人	窓口とオンラインを併用
C	9億円	12万人	窓口のみ

資料2 予算委員会の意見（会話文）

単位：なし｜期間：審議時｜対象地域：架空の国会｜教材用の架空資料

都立入試ナビ

議員P：同じ費用なら多くの人が利用できる案を重視したい。

議員Q：オンラインを使いにくい人も利用できることが必要だ。

議員R：利用状況を公開し、翌年度に見直す条件を付けよう。

案Aの1億円当たり利用見込みを求めた上で、効率と公正の両方を考えた修正案を60字以内で提案しなさい。

正答：2万人。案Aを基本に窓口支援を加え、利用状況を公開して翌年度に見直す。

資料中の根拠

案Aは12億円で24万人、Qは窓口支援、Rは公開と見直しを求めている。

読み取る数値・語句・位置・期間

案Aの12億円・24万人、窓口支援、利用状況の公開、翌年度の見直し。

選択肢の判断理由

利用人数の効率を保ちつつ、利用手段による不利益を減らし、検証可能にする提案である。

必要な社会科知識

国会は内閣が提出した予算を審議・議決し、限られた財源の配分を検討する。

詳しい解説

24÷12＝2万人。効率だけでAを選ばず、利用しにくい人への公正な配慮と事後検証を加える。

間違いやすい点

最も安い案Cを効率的と決めつけ、利用人数を費用で割らないこと。

誤答しやすい理由

総費用だけでは効率を比較できず、利用可能性の公正さも別に検討する必要がある。

記述問題の模範解答

2万人。案Aを基本に窓口支援を加え、利用状況を公開して翌年度に見直す。

記述条件

1億円当たりの人数、オンラインを使いにくい人への配慮、公開または見直しを含め、60字以内で書く。

別の適切な表現

2万人。Aに対面窓口を組み合わせ、実績を公開して次年度の配分を検討する。

見直しポイント

万人を億円で割り、効率と公正の根拠を一つずつ使ったか確認する。

採点観点

2万人が正しく、効率と公正を両立する具体的な修正が資料に即していること。

都立入試ナビ

問題 10

区分：本番形式

分野：公民・両院の議決

資料1 架空の法律案に対する両院の議決（表）

単位：票｜期間：同一会期｜対象地域：架空の国会審議｜教材用の架空資料

議院	賛成	反対
衆議院	310	150
参議院	110	120

資料2 法律案についての基本ルール（文章資料）

単位：なし｜期間：日本国憲法施行下｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

法律案は、憲法に特別の定めがある場合を除き、両議院で可決したとき法律となる。

両議院の議決が異なる場合には、憲法の定める手続がある。

両院それぞれの賛否差を求め、この資料だけで法律成立と断定できない理由を50字以内で説明しなさい。

正答：衆議院は賛成160票差、参議院は反対10票差。両院の議決が異なり、次の手続を確認する必要があるから。

資料中の根拠

衆議院は賛成が多く、参議院は反対が多い。資料2は議決が異なる場合に別の手続があると示す。

読み取る数値・語句・位置・期間

衆議院310対150、参議院110対120、両議院、議決が異なる場合の手続。

選択肢の判断理由

一方の議院の結果だけで成立と判断せず、両院関係の憲法上の手続を確認しなければならない。

必要な社会科知識

法律案は原則として両議院で可決したとき法律となり、議決が異なる場合には憲法上の手続がある。

詳しい解説

衆議院の差は160票、参議院の反対差は10票。二院制では両院の議決を確認する。

間違いやすい点

衆議院の賛成票だけを見て、直ちに成立と断定すること。

誤答しやすい理由

資料には次の手続の結果が示されていないため、成立・不成立の最終判断はできない。

都立入試ナビ

記述問題の模範解答

衆議院は賛成160票差、参議院は反対10票差で議決が異なり、次の手続の確認が必要だから。

記述条件

両院の票差と、議決の違い・次の手続を含め、50字以内で書く。

別の適切な表現

160票の賛成差と10票の反対差で両院が一致せず、その後の手続が不明だから。

見直しポイント

どちらが多いかを議院ごとに確認し、資料にない結果を推測していないか見直す。

採点観点

両院の票差が正しく、成立を断定できない理由が制度に即して示されていること。

問題 11

区分：本番形式

分野：公民・審議と説明責任

資料1 架空委員会の審議改善前後（表）

単位：時間・件｜期間：第1回審議・第2回審議｜対象地域：架空の国会委員会｜教材用の架空資料

項目	第1回	第2回
審議時間	4時間	7時間
公開資料	3件	8件
意見聴取	2件	6件

資料2 改善後の意見（会話文）

単位：なし｜期間：第2回審議後｜対象地域：架空の国会委員会｜教材用の架空資料

委員A：審議に時間がかかった。

委員B：判断に使った資料と意見を国民が確認しやすくなった。

委員C：次回は論点を先に整理して時間も抑えたい。

公開資料の増加数を求め、第2回審議の長所と改善点を55字以内で説明しなさい。

正答：5件増。資料と意見を確認でき説明責任が高まる一方、論点整理で審議時間を抑える必要がある。

資料中の根拠

公開資料は3件から8件に増え、Bは確認しやすさ、A・Cは時間と論点整理に触れている。

読み取る数値・語句・位置・期間

公開資料3件・8件、審議4時間・7時間、確認しやすさ、論点整理。

都立入試ナビ

選択肢の判断理由

情報公開は説明責任と公正に役立つが、審議の効率も改善できる。

必要な社会科知識

民主政治では、決定過程を公開し、国民に説明できることが信頼と参加の基礎になる。

詳しい解説

公開資料は8－3＝5件増。公開の長所を保ちながら、論点整理で時間を抑える提案が両観点を含む。

間違いやすい点

審議時間が長いことだけで、第2回を悪いと判断すること。

誤答しやすい理由

時間の増加には課題があるが、公開資料と意見聴取が増えた長所も資料に示されている。

記述問題の模範解答

5件増。資料と意見を確認でき説明責任が高まる一方、論点整理で審議時間を抑える必要がある。

記述条件

増加数、情報公開の長所、時間または論点整理の改善点を含め、55字以内で書く。

別の適切な表現

5件増え透明性は高まったが、論点を先に示して審議を効率化する必要がある。

見直しポイント

公開による公正・説明責任と、時間による効率を両方書いたか確認する。

採点観点

5件が正しく、長所と改善点が資料上の異なる観点から示されていること。

問題 12

区分：本番形式

分野：公民・議会制民主主義

資料1 架空の政策案への市民意見（表）

単位：人｜期間：意見募集期間｜対象地域：架空の国｜教材用の架空資料

立場	人数	主な理由
賛成	420	早い実施を望む
修正を求める	360	対象基準の見直しを望む
反対	220	費用の説明不足を指摘

都立入試ナビ

資料2 架空の国会審議（会話文）

単位：なし｜期間：意見募集後｜対象地域：架空の国会｜教材用の架空資料

議員A：最も人数の多い賛成意見を尊重しよう。

議員B：修正や反対の理由も審議し、基準と費用を説明しよう。

議員C：修正後の案と理由を公開し、次の選挙でも評価できるようにしよう。

資料3 代表を通じた政治参加（文章資料）

単位：なし｜期間：議会制民主主義の学習用整理｜対象地域：日本｜教材用の架空資料

国民は選挙で代表者を選び、代表者は議会で政策を審議する。

国民は選挙以外にも意見を示し、政治の過程を見守ることができる。

意見の合計人数を求め、議会制民主主義をよりよく運営するために必要なことを70字以内で説明しなさい。

正答：1000人。多数意見を尊重しつつ少数側の理由も審議し、決定理由を公開して国民が継続して評価できるようにする。

資料中の根拠

意見は合計1000人で、発言には多数の尊重、他の理由の審議、決定理由の公開と選挙での評価がある。

読み取る数値・語句・位置・期間

賛成420人、修正360人、反対220人、審議、説明、公開、選挙での評価。

選択肢の判断理由

多数決だけでなく十分な審議と情報公開を行い、主権者が代表者の判断を継続的に評価できる。

必要な社会科知識

議会制民主主義では、国民が選んだ代表者が議会で審議し、国民の意思を政治に反映する。

詳しい解説

420＋360＋220＝1000人。多数の尊重、少数意見の検討、説明責任、国民の継続的参加を結び付ける。

間違いやすい点

賛成420人が最大なので、他の意見を検討せず実施すればよいと書くこと。

誤答しやすい理由

民主的な決定には多数決だけでなく、少数意見の尊重、十分な審議、説明と評価の機会が必要である。

記述問題の模範解答

1000人。多数意見を尊重しつつ少数側の理由も審議し、決定理由を公開して国民が継続して評価できるようにする。

記述条件

合計人数、多数意見、少数意見、審議または公開、国民の評価または参加を含め、70字以内で書く。

都立入試ナビ

別の適切な表現

1000人。代表者が多様な意見を審議して理由を説明し、主権者が選挙や意見表明で評価し続ける。

見直しポイント

人数を再計算し、代表者の審議と国民の参加の両方を書いたか確認する。

採点観点

1000人が正しく、多数・少数意見、審議・公開、国民の評価が適切に関連付けられていること。

部分点について

東京都教育委員会の採点のポイントは、記述で必要な内容を観点として示し、各学校が部分点の基準と点数を定めるとしています。本教材は学習上の観点だけを示し、一律の部分点・減点数は設定しません。模範解答と同じ表現でなくても、指定された資料上の根拠と条件を満たす表現は適切な解答になり得ます。

総合見直しと復習

・国会、内閣、裁判所の役割を取り違えていない。

・衆議院と参議院から成る二院制を確認した。

・制度上の決まりと架空事例を区別した。

・多数意見と少数意見の両方を資料から確認した。

・効率だけ、公正だけの一方に偏らず影響を見直した。

・記述に資料中の根拠、社会科知識、指定された観点を含めた。

復習方法

・誤答した問題は、制度知識、資料読み取り、観点整理のどこで誤ったか記録する。

・翌日に資料を隠して制度の仕組みを矢印で再現する。

・対立する二つの意見について、共通の目的と異なる手段を言い換える。

・記述は模範解答を写す前に、同じ根拠を使った別表現を作る。

公式情報確認日：2026-09-03

都立入試ナビ